

**新型コロナウイルス対応緊急支援助成  
事業計画（実行団体）**

事業名(主)	つないで支える地域の輪、子ども食堂の輪
事業名(副)	

入力数 主 20字 副 0字

実行団体名	特定非営利活動法人ワーカーズコレクティブういず
資金分配団体名	一般社団法人全国食支援活動協力会

**優先的に解決すべき社会の諸課題**

領域	分野
<input checked="" type="checkbox"/> 1) 子ども及び若者の支援に係る活動	<input checked="" type="checkbox"/> ①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援
	<input checked="" type="checkbox"/> ②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援
	<input type="checkbox"/> ③社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援
<input checked="" type="checkbox"/> 2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動	<input type="checkbox"/> ④働くことが困難な人への支援
	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援
<input checked="" type="checkbox"/> 3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動	<input checked="" type="checkbox"/> ⑥地域の働く場づくりの支援
	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援

上記以外 その他の解決すべき社会の課題	<input type="checkbox"/>
------------------------	--------------------------

入力数 0字

**SDGsとの関連**

ゴール
_1.貧困をなくそう
_2.飢餓をゼロに
_3.すべての人に健康と福祉を
_4.質の高い教育をみんなに
_11.住み続けられるまちづくりを

実施時期	2021/6/1 ~ 2022/2/1
事業対象地域	全国 <input type="checkbox"/> 特定地域 <input checked="" type="checkbox"/> (千葉県北部 東葛エリア)
事業対象者	子ども食堂等子供の居場所を運営する団体、ひとり親家庭や母子生活支援施設等を対象に、食を媒介としたネットワーク活動・中間支援を行う団体や施設
事業対象者人数	延べ20拠点(団体・施設) × 50人 × 月2 × 9か月 = 1.8万食(人) ファミリーホーム 5食 × 30日分 × 9か月 = 1350食(人)

**I. 団体の社会的役割**

(1) 団体の目的 (200字以内)
暮らしやすい住みやすい街づくりを目的に、子供から高齢者まで誰でも集える居場所づくりを行う。居場所で拾った暮らしのお困りごとから地域に必要なモノやサービスを、地域の人や団体に繋いで課題の解決に寄与していく。また、地域力で一住民主体で一課題解決に向かうように、地域の人の活躍の場を作り支える。地域に活躍の場と人の流れを作ることで、社会からの孤立や分断を軽減させるとともに地域の活性化に貢献する。
(2) 団体の概要・事業内容等 (200字以内)
2004年設立 日常生活支援サービス(2004年～) / 子育てひろば (2006年～2011年) 高齢者の居場所事業(2008年～) / 居宅訪問型サービスA(2016年～) / 柏市社会福祉協議会常設型通いの場事業 (2016年～) / 子ども食堂(2017年～) / 新型コロナウイルス対策緊急支援事業 (ちばのWA地域づくり基金) キッチンカーでGO!事業 (2020年10月～)

入力数 (1) 194字 (2) 195字

**II. 事業の背景・社会課題**

新型コロナウイルス感染症により深刻化した社会課題 (800字以内)
2017年より柏市のUR住宅団地内商店会の一角で、子ども食堂を開始。当初は、近隣小学校の要請で経済的困窮家庭等課題を抱える児童に朝食を提供する活動としてスタート、食事の提供と商店会の花壇づくりなどを地域の方々と一緒に作業する体験学習を実施してきた。毎回5～50人の参加があった。参加する児童に共通していたのは自己肯定感の低さだったが、地域のボランティアと一緒に活動していくことで「誰かの役に立っている」という自信や成長がみられ、子どもが成長していく居場所として子ども食堂のニーズを実感し運営していた。新型コロナウイルスの感染拡大により、カフェも子ども食堂も活動自粛をせざるを得ない状況となった。これまで経験したことのない自粛生活の中で、高齢の常連客には鬱病や認知症を発症したという方、地域での虐待やネグレクトの情報を知ることが増え、コロナ禍でのストレスは、高齢者にも子供にも、そして親子関係にも影響していることを実感した。密にならず地域の繋がりを保ち、見守りできるような活動をしたと考え、2020年6月に月1回のフードパントリーを開始、11月からは休眠預金等活用事業でキッチンカーを導入し、2か所の拠点で食材の提供だけでなく、心の居場所として本事業が機能していると自負している。活動の経験の積み上げにより、近隣農家や企業から野菜や食材等の寄付も増加している。単に子ども食堂を運営する一団体だけでなく、地域全体で食を通じて子どもの育ちを支援する形が実現しつつある。しかしながら提供された食材の供給量や時期はコントロールできるものでなく時に供給過多となり活用しきれずに食品ロスとなってしまう実態もある。地域全体で子ども食堂に参加する仕組みをよりスムーズに無駄なくしていくために、食品保管/管理を工夫し、地域の活動団体の労力軽減をし、必要な人に必要な支援が届けられる仕組みづくりが急務である。

入力数 798字

III.事業内容

(1)事業の概要

子ども食堂等の居場所事業を行う団体や施設とのネットワークの形成。子ども食堂等の居場所事業を行う団体や施設への食材の配布や保管管理。  
子ども食堂等の居場所事業を行う団体や施設のコロナ禍での困りごとや課題を拾う。

入力数 105 字

(2)事業実施後（1年後）以降に目標とする状態

- ・千葉県柏市を拠点に県内外の子ども食堂等居場所事業所とのネットワークが形成・拡充される状態。
- ・千葉県柏市を拠点に県内外の子ども食堂等居場所事業所への運搬ルートが開拓されている状態。
- ・各団体に必要な物が必要な数だけ届くようにシステム化されている状態。
- ・子ども食堂等の活動が地域に根付いた活動となるように、また団体が孤立しないよう課題の共有や情報の発信を通じたサポートができる状態。

入力数 195 字

(3)今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	実施・到達状況の目安とする指標	把握方法	目標値/目標状態	目標達成時期
①子ども食堂等の居場所事業を行う地域の団体や施設と繋がっている状態②各団体への参加者数や必要な食品の数が把握できている状態③各団体の活動エリア内で効率よく食品を受け取ることができるようにハブ拠点が形成されている状態④情報の受発信により、地域の課題が把握され共有できている状態	①食品や食材の寄付を受け取った地域の居場所等の団体数②食品配布世帯数③各ハブ拠点が配布可能な団体数。冷凍冷蔵庫やストックの設置数④ネットワーク会議への参加登録者数、相談件数、要望や意見の数	①寄付の受け取りを希望する団体との連絡会、仮称「わわわ会」への登録団体数のカウント②アンケート等の回答、配布食数からの参加人数、世帯のカウント③ハブ拠点への運搬回数、運搬量とリピーター率④ネットワーク会議（仮称・わわわ会議）への要望や相談内容、ハブ拠点管理者からの評価	①地域の居場所事業所等との連絡会仮称「わわわ会」を通じて40団体と繋がっている②地域の各団体から200世帯に食材や食品が配布されている③ハブ拠点が4か所以上に設置できている④連絡会が主催するネットワーク会議（仮称・わわわ会議）に20団体10人以上の個人が参加している	①②③④2022年度2月末迄 ④各事業所へのアンケート回収12月末迄 分析2022年2月末
(4)活動			時期	
1. 月2回程度の食品受け取り。ロジ拠点の機能強化。			2021年6月～2022年2月末	
2. 地域の活動団体の把握。食品の受け取りを希望する居場所等との連絡会（仮称）「わわわ会」を通じて緩やかなネットワークを形成。			2021年7月～2022年2月末	
3. 月2回程度の食品配布（運搬）。ハブ拠点の開拓。ハブ拠点からの連絡網の整備。			2021年7月～2022年2月末	
4. 食材配布時の実態調査（アンケート調査）を実施。アンケートの回収と分析。			2021年11月～2022年2月末	
5. 7月～2月迄、月1回、計8回程度のネットワーク会議（仮称）「わわわ会議」を開催し、地域の課題や団体の活動情報を共有する。			2021年7月～2022年2月末	
6. 配達運搬システムの開拓（構築）。生活クラブ生協千葉。ワーカーズコレクティブ千葉県連合会。柏市社会福祉協議会。風早北部ふるさと協議会。全国食支援活動協力会。			2021年7月～2022年2月末	

IV.事業実施体制

(1)メンバー構成と各メンバーの役割	○ワーカーズコレクティブういず 正会員17名 賛助会員80名○当該事業実施体制 4～6名体制。○ういず=実行団体：分配調整役・データ管理・対外窓口○ロジ拠点ういず本拠地（柏市松葉町）=冷凍冷蔵庫設備の設置・食品加工器具○生活クラブ生協柏物流センター（柏インター付近）食材の管理保管場所・冷凍ストッカー・コンテナの貸与○食品管理責任者在中
(2)他団体との連携体制	○ワーカーズコレクティブ千葉県連合会：生活クラブ生協グループ団体。県内のワーカーズ事業所の中間支援組織。子ども食堂等居場所運営は3団体4拠点（柏・野田・松戸・佐倉）幼稚園給食・惣菜・レストラン事業所（7拠点柏・松戸・市川・佐倉・野田）。○生活クラブ生協組合員が運営する子ども食堂（県内33団体）○柏市子ども食堂連絡会：柏市市民が運営する子ども食堂（20程）の連絡会。当団体も所属。○柏市市役所：子ども福祉課からひとり親家庭へのフードパントリー等の開催のお知らせが届く。○ファミリーホーム（松戸）への食材の配達。5年ほど前からケア者を派遣し、家庭養護施設で子供たちの食事や入浴等の日常生活のお世話をしている。
(3)想定されるリスクと管理体制	・子どもの居場所運営団体に対し、コロナ禍における活動ノウハウの共有と情報の受発信等、いつでも連絡が取れる関係性をつくる。・冷凍冷蔵庫や運搬車両により分配した食品等が適切に管理されないことで、食中毒の事故が発生することが想定される。事故を防ぐために、食品衛生責任者を配置し、食材の保管方法等にも工夫を凝らす。・食品の仕分けや作業等の蜜を防ぐため、屋外作業のスペースも設ける。